

◆ 今週のコメント

- 急性脳炎の報告が1例(男性, 10歳代)あり, 本年の累積報告数は4例となっています。症状は発熱, 頭痛, 意識障害で, 原因病原体は不明です(第22週(5月28日～6月3日)追加分)。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(男性, 70歳代)あり, 本年の累積報告数は3例となっています。症状はショック, DIC(播種性血管内凝固症候群), 軟部組織炎, 壊死性筋膜炎, 化膿性肩関節炎で, 感染地域は国内, 推定感染原因は創傷感染です。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.59(311例)で, 第21週(5月21日～5月27日)以降, 3週連続で減少していますが, 依然として過去5年平均値を上回った状態が続いています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.80(115例)で, ゴールデンウィーク後の第19週(5月7日～5月13日)以降, 連続して増加するとともに, 過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。年齢階級別では4歳及び5歳が各20例(17.4%)で, 4歳から8歳までで67.8%を占めています。
- 突発性発しんの定点当たり報告数は0.68(28例)で, 先週(0.51)に比べ増加するとともに, 過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では6箇月～1歳で報告があります。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 5例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 181例(肺結核 77例, その他結核 39例, 潜在性結核感染者 65例)うち喀痰塗抹陽性 42例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類: 急性脳炎 1例(第22週追加分)【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.59	311
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.80	115
	③ 水痘	1.68	69
	④ 突発性発しん	0.68	28
	⑤ 手足口病	0.20	8
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

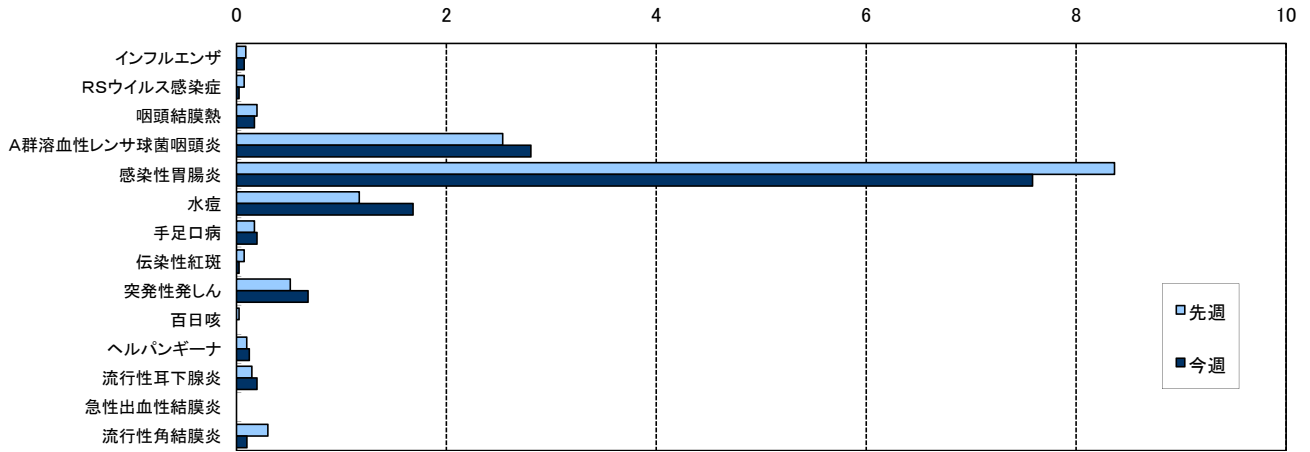
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

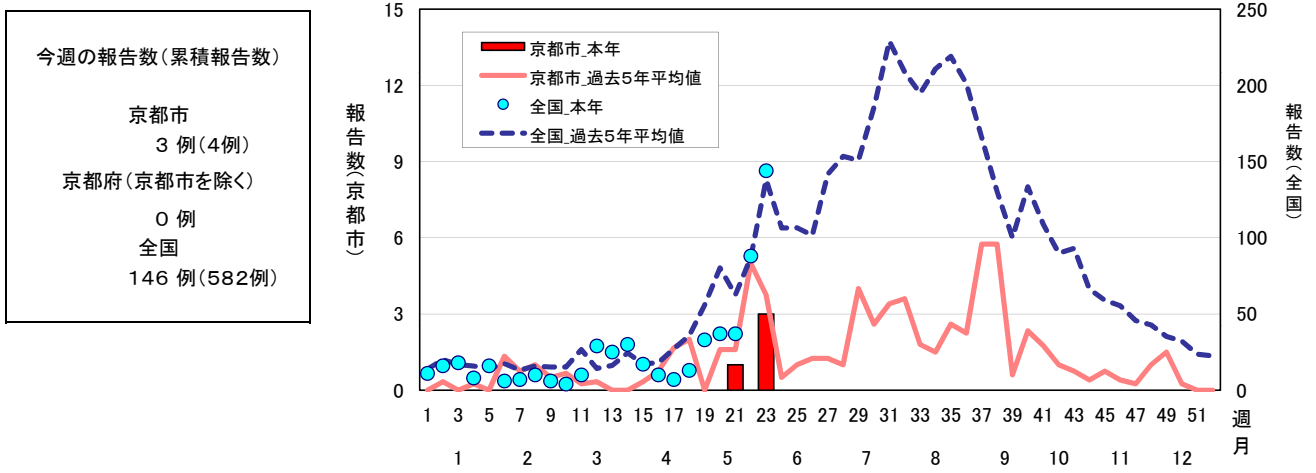
(注) 京都市のデータは, 平成24年6月13日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第23週)と先週(第22週)の定点当たり報告数の比較

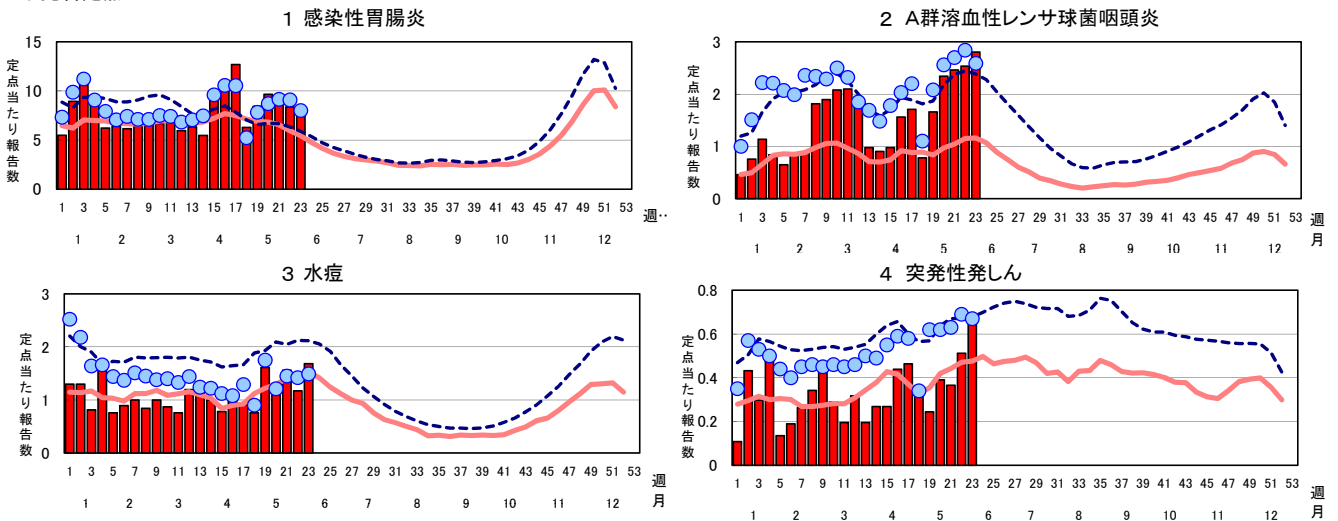


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

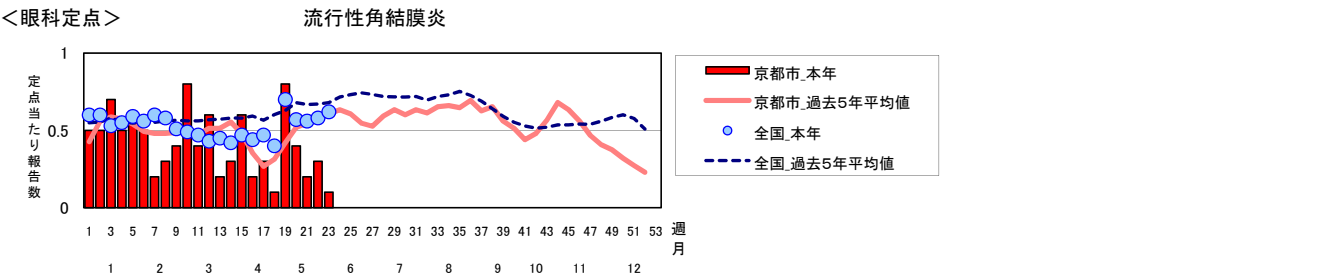


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第23週(6月4日～6月10日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例あり、年齢群別、性別、血清型(毒素型)、推定感染経路は、
 10歳未満、男性、HUS(溶血性尿毒症症候群)発症で血清型不明、感染経路不明、
 10歳代、男性、O157(VT1・VT2)、経口感染、
 20歳代、女性、O157(VT1・VT2)、経口感染(生焼けの肉やレバー)です。

平成23年第1週以降の本市及び全国の推移をみると、平成23年は6月から9月にかけて報告が多くなっており、
 本年も、本市では第21週(5月21日～5月27日)の1例目(O145)に続いての報告となっています。

推定感染原因としては肉類が最も多くなっていますが、平成23年には肉類以外に、飲料水(長野県)、なすと大葉のみみ漬(栃木県)、大根おろし大葉(石川県)、発芽野菜(ドイツ)などを原因食品とする事例(*)も報告されています。

(*)国立感染症研究所 IASR(病原微生物検出情報 月報)2012年5月号(特集:腸管出血性大腸菌感染症)
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>

本市における診断年別 型別報告数

診断年	合計	O26	O86	O91	O103	O111	O121	O145	O157	その他
平成11年4月以降	26								25	O1が1例
平成12年	33	8							25	
平成13年	52	8				1			43	
平成14年	35				1				32	O165, O型別不明が各1例
平成15年	101	5							96	
平成16年	48	2					4		42	
平成17年	36	5		1					30	
平成18年	57	2					1		54	
平成19年	54	2				3			49	
平成20年	86	34			5	2		3	41	HUS患者のため型別不明が1例
平成21年	93	8		1		3	1	1	79	
平成22年	34	1			1	2			30	
平成23年	34		1			1		1	30	HUS患者のため型別不明が1例
平成24年第23週まで	4							1	2	HUS患者のため型別不明が1例

本市及び全国の推移 (平成23年～平成24年第23週)

